

1999年度 社会学部優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文

選考委員代表 安 藤 文四郎

本年度の安田賞には、別表のように3点の論文が推薦され、審査の結果そのいずれもが優れた論文として評価され、卒業式当日に安田賞を授与されました。

そのうち最優秀論文賞を受賞した岡本香織さん（大谷ゼミ）の論文は、ゼミでおこなわれた松山・西宮・八王子・武蔵野の4市についての比較研究を、筆者独自の視点から発展させたもので、量的調査データの結果を丹念な聞き取り調査によって検証していくという、ユニークなものでした。

地域住民の自主的なグループ活動やサークル活動の水準が、行政の提供する諸施設の質・量に依存すること、とりわけ武蔵野市のように施設の設計段階から住民が参加し、その後の管理・運営にも深くかかわっている場合に、地域住民の自主的な活動がもっとも活発になる、という考察と結論は、これからのコミュニティづくりを考えるうえで、多大の示唆を与えるものです。

最優秀論文	卒 業 論 文 名
岡本 香織 (大谷 信介ゼミ)	「施設が地域を変える—西宮市の地域活動の現状と課題—」
優秀論文	卒 業 論 文 名
太田 博和 (山本 剛郎ゼミ)	「神戸華僑コミュニティ研究」
巽 祥子 (牧 正英ゼミ)	「終身雇用慣行—現状とこれから—」

〈指導教授推薦文〉

指導教授 大谷 信 介

岡本香織「施設が地域を変える～西宮市の地域活動の現状と課題～」

この論文が、学生の卒業論文として特に優れているのは、以下の諸点である。

① 論文内容（問題設定のユニークさ・分析の緻密さ・妥当性）：

この論文は、量的調査（1999年大谷研究室で実施した「4都市居住類型別調査」）の結果＝〈「地域活動が盛ん」という数字とグループ活動参加率〉が、居住地域別に異なる理由を、質的調査によって、その原因が地域施設と関連があることを発見した論文である。安易に量的データ解析のみを実行して卒論を作成する学生が多い中で、面倒な聞き取り調査を実施して問題を解明しようとする研究姿勢には好感が持てる。

特に量的調査の示す結果が、丹念な聞き取り調査の結果と一致していく分析過程はきわめて説得力があり、緻密な分析が展開されているといえる。

論文構成・論文の体裁・既存研究のフォロー・文章力いずれに関しても、極めてすばらしいと評価することが可能である。

② 政策提言可能性

この論文の「西宮市でボランタリーアソシエーションが活性化しない原因が、地域施設の量的・質的貧困さに由来するという結論」も、西宮市の実情を的確に示す分析であり、本論文の政策提言的価値も評価できる。

③ 高い調査能力と資料収集・整理能力

この論文に登場してくる膨大な聞き取り調査のほとんどは、岡本香織が個人的に実施したものであり、その調査にかけた時間と労力は膨大なものである。また西宮市や武蔵野市の資料を丹念に収集・整理し、わかりやすい表にまとめるめた点、ワープロで地図を取り込んだり、資料としてインターネットを使うなど、最新のコンピューター技術を取り入れた点など、資料収集・整理能力も評価できる。